

柿「次郎」の 摘果講習会

三重・JA伊勢

【三重・伊勢】JA

伊勢玉城柿部会は6月下旬、玉城町の園地2力所で、柿「次郎」の摘果講習会を開いた。部会員約30人が参加し、県中央農業改良普及センターと同JAの担当者の指導で摘果方

法の説明を受けた。

講習会では、高品質



な柿を生産するため、現時点で不良な果実を落とす粗摘果、来年産に向けた新梢（しんしよう）管理、病害虫防除を確認した。担当者は「安定した収量を確保するには摘果作業が重要だ。品質向上へ適期作業を心がけてほしい」と呼びかけた。

「次郎」は、果実が大きく、果汁が少ない完全甘柿。干し柿にした加工品「玉手柿」も人気だ。同部会では、生産者71人が所属し、約23秒で栽培をしている。

県中央農業改良普及センターの担当者から摘果作業の説明を受ける部会員ら